

各関係機関の長 殿

福岡県病害虫防除所長

平成15年度病害虫発生予報第6号について

このことについて、以下のとおり送付します。

平成15年度病害虫発生予報第6号(9月)

【普通作物】

作物名	病害虫名	発生現況 (平成比)	発生予想 (平成比)
普通期水稻	穂いもち 紋枯病 トビイロウンカ コブノメイガ 斑点米カメムシ類	やや多い 並 少ない やや多い 並	やや多い 並 少ない やや多い 並
大豆	ハスモンヨトウ 吸実性カメムシ類	やや少ない -	並 並

斑点米カメムシ類については、前年対比。

【普通作物 - 普通期水稻】

1 穂いもち

(1) 予報の内容

発生量：平成・前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査の結果、早植水稻の穂いもちの発病穂率は1.7%
(平成：0.1%、前年：0.1%)、発生ほ場率は57.1%(平成：
34.7%、前年：42.1%)であった。

イ また、葉いもちの発病株率は4.8%(平成：8.6%、前年：
3.2%)、発生ほ場率は34.4%(平成：43.8%、前年：
23.2%)であった。

ウ 気象予報では9月の平均気温は高く、降水量は平成並か多く、日照時
間は平成並か少ないと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 穂いもちは収量に影響を及ぼすので、出穂前後の基幹防除を徹底する。

イ 上位葉に葉いもちの病斑が目立つほ場や常発地では、穂揃い期に2回
目の防除を行う。

ウ 基幹防除実施後に降雨が続く場合は、雨の合間に2回目の防除を行う。

エ 防除薬剤は「平成15年度普通作物病害虫防除基準」を参照する（以下の病害虫についても同様）。なお、出穂以降の防除は、粉剤または液剤を用いる。

2 紋枯病

(1) 予報の内容

発生量：平年並、前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査の結果、発病株率は5.8%（平年：9.7%、前年：2.8%）、発生ほ場率は37.7%（平年：61.2%、前年：32.8%）であった。

イ 気象予報では9月の平均気温は高く、降水量は平年並か多いと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

出穂期以降、病斑の上位葉への進展がみられる場合は、補正防除を行う。

3 トビイロウンカ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年より少ない

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査の結果、10株当たり成幼虫数は0.3頭（平年：4.8頭、前年：3.7頭）、発生ほ場率は13.1%（平年：34.0%、前年：43.1%）であった。

イ 気象予報では9月の平均気温は高いと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

要防除水準（8月下旬：100頭/100株、9月下旬：1000頭/100株）を超える場合は、早急に防除を実施する。

4 コブノメイガ

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多く、前年より多い

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査の結果、食害株率は44.4%（平年：24.8%、前年：9.1%）、発生ほ場率は89.5%（平年：80.1%、前年：53.5%）であった。また、上位2葉の食害葉率は4.6%（平年：1.5%、前年：0.4%）であった。

イ 気象予報では9月の平均気温は高いと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

補正防除を行う場合は、使用基準を確認して薬剤を選定する。

5 斑点米カメムシ類

(1) 予報の内容

発生量：前年並

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬の片振り20回すくい取り調査の結果、クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、シラホシカメムシ類は本田で0.3頭（前9か年平均：0.9頭、前年0.9頭）、畦畔で1.9頭（前8か年平均：3.4頭、前年：3.0頭）、雑草地で6.9頭（前8か年平均：15.0頭、前年：7.6頭）であった。

イ また、アカスジカスミカメとヒメホソミドリカスミカメは本田で

0.6頭（前年：0.3頭）、畦畔で13.7頭（前年：10.3頭）、雑草地で34.0頭（前年：40.1頭）であった。

ウ 気象予報では9月の平均気温は高いと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 防除適期は穂揃期と穂揃期後7～10日目である。

イ 水田周辺にイネ科植物があるほ場や例年斑点米の発生が多い地域では、アに従って2回の防除を徹底する。

ウ エノコログサ等の多い畦畔及び雑草地で、カスミカメ類の発生が多い地域は、畦畔及び雑草地も含めて防除を行うと防除効果が高くなる。

【普通作物 - 大豆】

1 ハスモンヨトウ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査の結果、25株当たりの幼虫数は1.5頭（前9か年平均：13.4頭、前年：8.1頭）であった。

イ 筑紫野市のフェロモントラップによる8月1～5半旬の誘殺虫数は852頭（平年：425頭、前年：916頭）であった。

ウ 気象予報では9月の平均気温は高く、降水量は平年並か多いと予想されている。

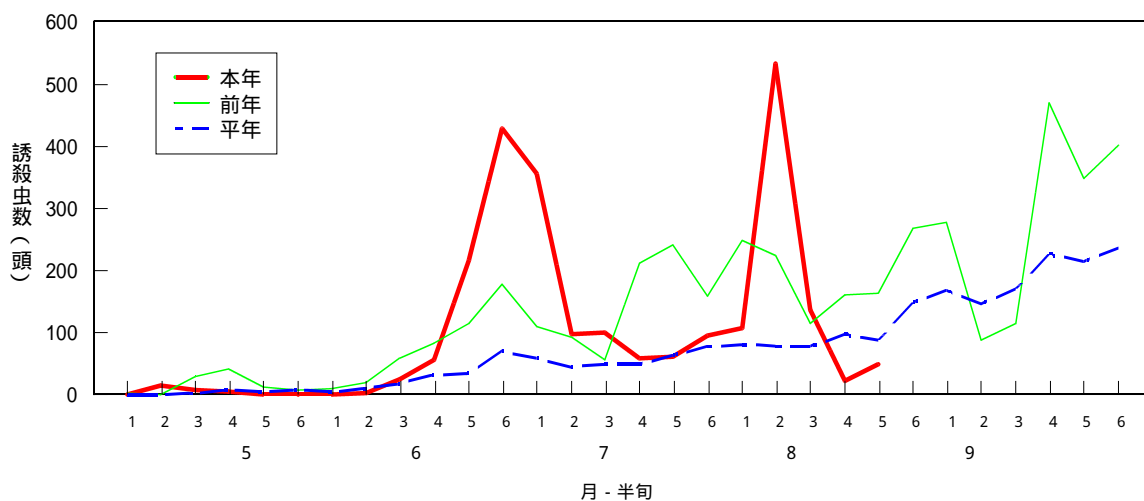
(3) 防除上注意すべき事項

ア 若齢幼虫が群棲している白変葉は直ちに除去する。

イ 薬剤散布は防除効果の高い若齢幼虫期に実施する。

ウ フェロモントラップによる誘殺虫数を利用する場合は、誘殺ピークから10日目頃から防除を開始する。

エ 今後のフェロモントラップによる誘殺状況は、病害虫防除所の発生予察情報、ホムベジを参照する。



ハスモンヨトウのフェロモントラップによる誘殺虫数の推移 (筑紫野市)

武田式乾式トラップ

2 吸実性カメムシ類

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査の結果、25株当たりの主要3種カメムシ類（アオクサカメムシ、イチモンジカメムシ、ホソヘリカメムシ）の成幼虫数は0頭（平年：0.4頭、前年：0.5頭）であった。

イ 気象予報では9月の平均気温は高いと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 幼莢期から子実肥大期における加害が多いので、この時期に防除を実施する。なお、防除は着莢部に薬剤が十分付着するように散布する。

イ カメムシ類は広範囲に移動するので、薬剤散布はできるだけ広い地域を一斉に行うと効果が高い。

【果 樹】

作物名	病虫害名	発生現況 (平年比)	発生予想 (平年比)
カンキツ	黒点病 ミカンハダニ	並 並	並 並
カキ	炭疽病 うどんこ病 フジコナカイガラムシ ハマキムシ類	やや多い やや多い やや多い 並	やや多い やや多い やや多い 並
カキ カンキツ類等	カメムシ類	少ない	少ない

【果 樹】

1 カンキツのミカンハダニ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査の結果、寄生葉率は21.7%（平年：13.8%、前年：14.5%）、発生ほ場率は55.0%（平年：57.2%、前年：65.0%）であった。

イ 気象予報では9月の平均気温は高く、降水量は平年並か多いと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 薬液が葉裏に十分かかるよう丁寧に散布する。

イ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション使用する。

2 カキの炭疽病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査の結果、発病枝率は1.2%（平年：1.2%、前年：0.8%）、発病ほ場率は47.1%（平年：22.3%、前年：23.5%）、発病果率は0.9%（平年：0.8%、前年：0.3%）、発病ほ場率は58.8%（平年：33.4%、前年：23.5%）であった。

イ 気象予報では9月の平均気温は高く、降水量は平年並か多いと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 樹冠内部の徒長枝に感染し発病しやすいので、防除にあたっては薬液が樹冠内部にも十分かかるように丁寧に散布する。

イ 罹病枝及び罹病果は、感染源になるので、できるだけ除去する。

3 カキのうどんこ病

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多く、前年より多い

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査の結果、発病葉率は20.6%（平年：12.5%、前年：5.6%）、発病ほ場率は88.2%（平年：74.8%、前年：76.5%）で、一部地域では多発している。

イ 気象予報では9月の平均気温は高く、降水量は平年並か多いと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 秋期は発生が多くなるので、葉裏に薬液が十分かかるように丁寧に散布する。

イ 早生種は収穫期に入るので、農薬使用基準に留意して薬剤を選択する。

4 カキのフジコナカイガラムシ

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多く、前年よりやや少ない

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査の結果、寄生果率は16.1%（平年：6.0%、前年：23.3%）、発生ほ場率は76.5%（平年：60.9%、前年：88.2%）であった。

イ 気象予報では9月の平均気温は高く、降水量は平年並か多いと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 本種は、ヘタの下や葉と重なった果実の表面など薬剤がかかり難いか所に多く寄生しているため、十分な薬量を使って散布むらのないように防除する。

イ 早生種は収穫期に入るので、農薬使用基準に留意して薬剤を選択する。

5 カキ、カンキツ等のカメムシ類

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年より少ない

発生時期：後期発生型で9～10月

(2) 予報の根拠

ア 8月1半旬～8月5半旬までの予察灯の総誘殺虫数は次のとおりである。（調査地点：筑紫野市吉木）

チャバネアオカメムシ 76頭（平年：2,441頭、前年：6,816頭）

ツヤアオカメムシ 46頭（平年：451頭、前年：2,407頭）

イ 8月1半旬～8月5半旬までの集合フェロモントラップの総誘殺虫数は次のとおりである。（調査地点：筑紫野市吉木）

チャバネアオカメムシ 0頭（前6か年平均：4,341頭、前年：23,552頭）

ツヤアオカメムシ 0頭（前6か年平均：201頭、前年：998頭）

ウ 8月下旬のヒノキ球果のピーティング調査ではチャバネアオカメムシの寄生虫数は、1地点当たり3.8頭（前5か年平均：6.4頭）と少なかった。

エ 県内27か所の8月下旬のヒノキ球果における1果当たり口針鞘数は、平均で2.0本、被害球果率も41.4%と少なく、カメムシがヒノキから離脱する時期は9月下旬以降と予想される。

オ 気象予報では9月の平均気温は高く、降水量は平年並か多いと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 毎年発生が多いほ場では、今後の発生状況に十分注意する。

イ 品目により農薬使用基準が異なるので、留意して薬剤を選択する。

【野菜】

作物名	病害虫名	発生現況 (平年比)	発生予想 (平年比)
アスパラガス	斑点病 ハダニ類 アブラムシ類 アザミウマ類 ヨトウ・タバコガ類	少ない 並 少ない やや多い 並	少ない 並 少ない やや多い 並
ネギ	シロイチモジヨトウ	やや少ない	やや少ない
野菜共通	ハスモンヨトウ	やや少ない	並

1 アスパラガスの斑点病

(1) 予報の内容

発生量：平年より少なく、前年より多い

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査の結果、発病株率は平均11.7%（平年：21.1%、前年：1.1%）であった。

イ 気象予報では、9月の平均気温は高く、降水量は平年並か多いと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 過繁茂になると多発するので、整枝を的確に行いほ場内の通風をよくする。

イ 発病部位はできる限り取り除き、薬剤による防除を徹底する。

2 アスパラガスのアザミウマ類

(1) 予報の内容

発生量：平年、前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査の結果、寄生株率は平均44.8%（平年：31.1%、前年：25.6%）であった。一部のほ場では多発している。

イ 気象予報では、9月の平均気温は高く、降水量は平年並か多いと予想されている。

3 ネギのシロイチモジヨトウ

(1) 予報の内容

発生量：平年、前年よりやや少ない

(2) 予報の根拠

ア 朝倉町長淵のフェロモントラップによる誘殺虫数は、7月5半旬～8月2半旬で143頭（平年：211.5頭、前年：176頭）、8月2半旬～8月5半旬で135頭（平年：181頭、前年：171頭）であった。

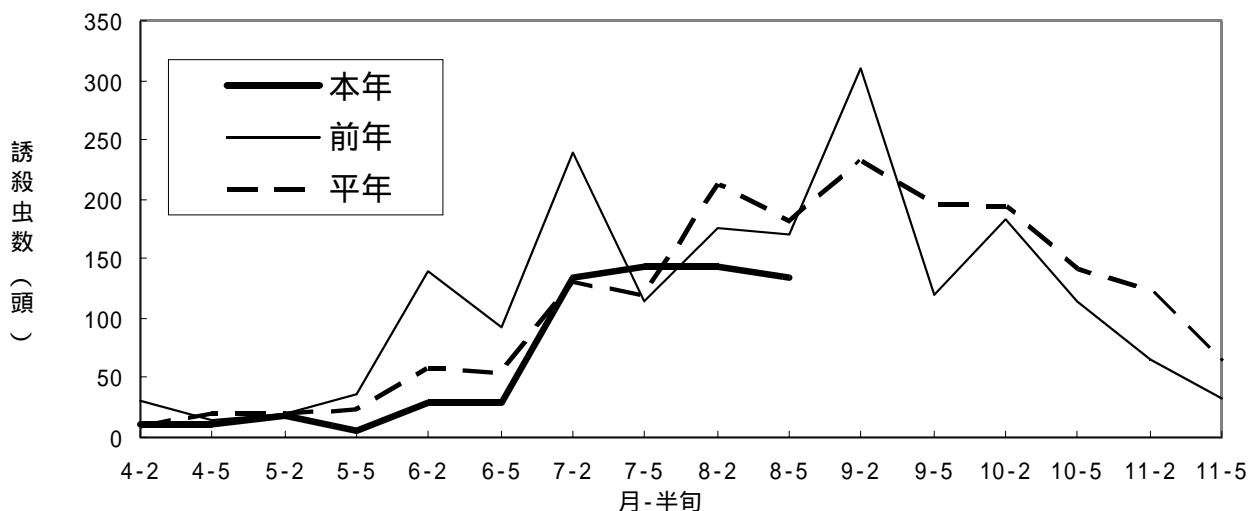
イ 気象予報では、9月の平均気温は高く、降水量は平年並か多いと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 例年8月以降に誘殺虫数が増え被害も増大するので、ほ場での発生状

況をよく観察する。また発生予察情報や当所のホームページに掲載しているフェロモントラップの誘殺状況などをみて、今後の発生動向に十分注意する。

- イ 中齢以降の幼虫には薬剤の効果が著しく低下するので、早期発見に努め、薬剤防除は孵化直後の幼虫をねらって行う。
- ウ 施設栽培では、成虫の飛び込み防止のため4mm目以下の防虫ネットを隙間なく張る。
- エ 葉身に産みつけられた卵塊から孵化した幼虫はそのまま葉身内に食入し、内部から食害するため、卵塊や初期の被害葉は見つけ次第直ちに除去する。
- オ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をロ・テ・ション散布を使用する。



フェロモントラップによるシロイチモジヨトウの誘殺虫数の推移(朝倉町長洲)

4 野菜共通のハスモンヨトウ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 筑紫野市のフェロモントラップによる8月1半旬～5半旬の誘殺虫数は、852頭(平年：425.1頭、前年：916頭)であった。

イ 8月5半旬の野菜類調査では本虫の寄生は認められなかった。

ウ 気象予報では、9月の平均気温は高く、降水量は平年並か多いと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

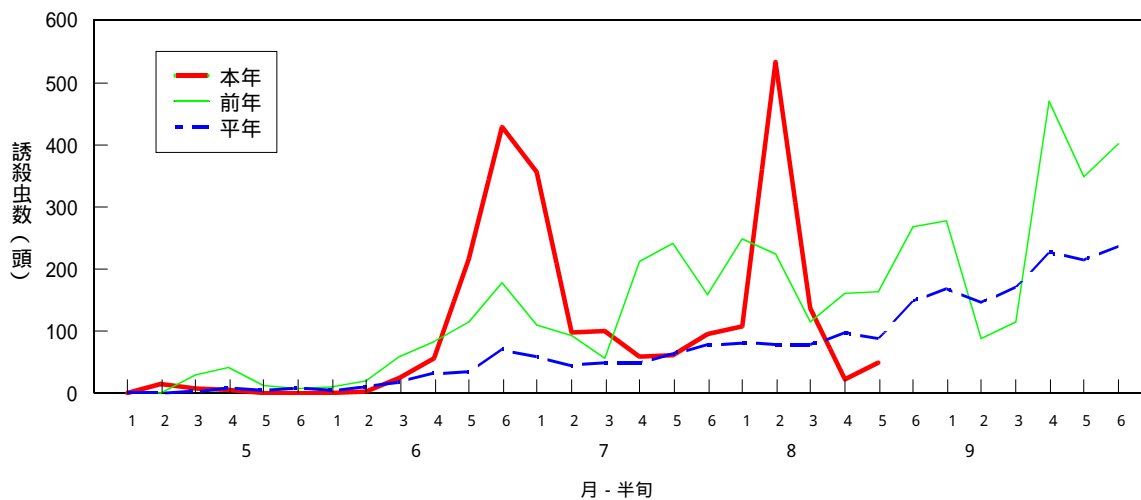
ア これから播種・定植時期となる野菜類での加害が予想されるので、ほ場での発生状況をよく観察する。また発生予察情報や当所のホームページに掲載しているフェロモントラップの誘殺状況などをみて、今後の発生動向に十分注意する。

イ 幼虫は集団となって葉を食害し、その後周囲に分散するので、初期の食害発生に注意し、卵塊や幼虫は見つけしだい捕殺する。ハウスでは、支柱やベンチの裏等に卵塊を産み付けることがあるので注意する。

ウ 老齢幼虫には薬剤の効果が低いので、早期発見に努め、防除効果の高い若齢幼虫期に防除を徹底する。

エ ナス、トマト等の果菜類では、葉以外にも花蕾や果実を食害する場合

があるので注意する。
オ ほ場周辺の雑草は増殖源になるので、丁寧に除去する。
カ 農薬使用基準を守り、危被害防止に努める。



ハスモンヨトウのフェロモントラップによる誘殺虫数の推移 (筑紫野市)
武田式乾式トラップ

【茶】

作物名	病虫害名	発生現況 (平年比)	発生予想 (平年比)
茶	炭疽病 カンザワハダニ チャノコカクモンハマキ チャノホソガ チャノミドリヒメヨコバイ チャノキイロアザミウマ	やや少ない やや少ない やや多い やや多い やや多い 並	やや少ない やや少ない やや多い やや多い やや多い 並

平年値（過去10年間の平均）がない場合は、前年までの平均値を用いた。

【茶】

1 炭疽病

(1) 予報の内容

発生量 : 平年よりやや少なく、前年並

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査の結果、1㎡当たり病葉数は0.4葉（平年：2.2葉、前年：0.1葉）であった。

イ 気象予報では、9月の平均気温は高く、降水量は平年並か多いと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 整枝後の残葉での発生に注意し、3葉期までに薬剤防除を実施する。

イ 本病害の薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、複数系統の薬剤を組み込んだローテーション散布を行う（この項は以下の病虫害についても同様）。

2 カンザワハダニ

(1) 予報の内容

発生量 : 平年よりやや少なく、前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査の結果、寄生葉率は1.8%（平年：2.6%、前年：0.7%）、50葉当たり虫数は2.5頭（平年：8.0頭、前年：1.0頭）であった。

イ 気象予報では、9月の平均気温は高く、降水量は平年並か多いと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ほ場によって発生にばらつきがあるので、発生状況をよく調べ、寄生葉率が2%以上の場合は防除を行う。

3 チャノコカクモンハマキ

(1) 予報の内容

ア 発生時期 : 平年・前年並

イ 発生量 : 平年・前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査の結果、1㎡当たり巻葉数は2.6葉（平年：0.5葉、前年：0.3葉）であった。

イ フェロモントラップによる8月5半旬までの累計誘殺数は、筑後市で1,251頭(前9か年平均:1,479頭、前年:1,010頭)、八女市で814頭(前3か年平均:648頭、前年:488頭)であった。

ウ 気象予報では、9月の平均気温は高く、降水量は平年並か多いと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 巻葉後の防除効果は劣るため、巻葉がみられたら直ちに防除を行う。

イ フェロモントラップによる調査では、第2世代成虫の発蛾最盛期は、9月1半旬～9月2半旬と予想されるので、ほ場内の成虫の発生に注意し、発蛾最盛期の7日後に防除を行う。

4 チャノホソガ

(1) 予報の内容

ア 発生時期: 平年並、前年よりやや遅い

イ 発生量: 平年・前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査の結果、1㎡当たり巻葉数は6.7葉(平年:2.5葉、前年:0.6葉)であった。

イ 黒木町(農総試八女分場)のフェロモントラップによる8月5半旬までの累計誘殺数は1,866頭(平年:1,691頭、前年:1,553頭)であった。

ウ 気象予報では、9月の平均気温は高く、降水量は平年並か多いと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 第5世代成虫の発蛾最盛期は、黒木町で9月2半旬頃と予想されるので、ほ場での成虫の発生に注意し発蛾最盛期の7日後に防除を行う。

イ 秋季は発生が多くなるので、発生の多いほ場は2～3葉期に必ず薬剤防除を実施する。

5 チャノミドリヒメヨコバイ

(1) 予報の内容

発生量: 平年・前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬のたたき落とし法による調査の結果、0.5頭(平年:0.3頭、前年:0.3頭)の発生であった。

イ 気象予報では、9月の平均気温は高く、降水量は平年並か多いと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ほ場によって発生にばらつきがあるので、たたき落とし法(A4版白紙上)で、4頭以上発生している場合は防除を行う。

6 チャノキイロアザミウマ

(1) 予報の内容

発生量: 平年並、前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬のたたき落とし法による調査の結果、4.0頭(平年:3.1頭、前年:1.8頭)であった。

イ 気象予報では、9月の平均気温は高く、降水量は平年並か多いと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ほ場によって発生にばらつきがあるので、たたき落とし法（A4版白紙上）で10頭以上発生している場合は防除を行う。

9月の気象予報（1か月）

（予報期間 8月30日～9月29日）

2003年8月29日

福岡管区气象台発表

【概要】

向こう1か月の平均気温は高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ない可能性が大きいでしょう。

九州北部地方では、天気は数日の周期で変更化するでしょう。残暑となる時期があるでしょう。

【要素別確率】

（単位％）

要素	低い （少ない）	平年並	高い （多い）
気温	10	40	50
降水量	20	40	40
日照時間	40	40	20

- < 1週目の予報 > 8月30日～9月5日
この期間の平均気温は、平年並か高い可能性が大きいでしょう。
- < 2週目の予報 > 9月6日～9月12日
この期間の平均気温は、平年並か高い可能性が大きいでしょう。
- < 3～4週目の予報 > 9月13日～9月26日
この期間の平均気温は、高い可能性が大きいでしょう。

参考資料

福岡における平年値

向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間と1週目、2週目、3～4週目の平均気温

向こう1か月			平均気温（ ）		
平均気温（ ）	降水量(mm)	日照時間(h)	1週目	2週目	3-4週目
24.1	183.4	166.8	26.2	25.0	23.2

病虫害防除所では、病虫害の発生状況と防除について、ホームページでお知らせしています。アドレス及び番号は下記の通りです。

ホームページアドレス
電子メールアドレス

<http://www.jpnp.ne.jp/fukuoka>
kfok0301@sp.jpnp.ne.jp